

市 町 村：村山市

タイトル：常にチャレンジ！北村山農業の未来を拓く若き経営者
～「作物を育て、人を育てる」経営を目指して～

氏名(集団名)：株式会社アグリラボ 代表取締役 柴田 清志

1 受賞者の概要

株式会社アグリラボの柴田代表は、平成16年に就農し、水稻ときゅうりの規模拡大を進め、平成29年には「やまがた農業経営塾」を受講し経営者としてのスキルを磨いてきた。平成31年に法人化し、水稻の直播栽培・スマート農業導入、農林大学校卒業生の雇用、にんじんの機械化体系導入など、様々なチャレンジを行っている。

2 特色ある活動

(1) 直播、スマート農業による水稻栽培省力化

周囲の水田を積極的に引き受けて規模拡大しており、水稻を作付している水田の約9割が事務所周辺2km圏内に集約されている。省力化のため鉄コーティングによる直播栽培を行っているほか、スマート農業の取組として「圃場水管理システム(WATARAS)」を試験導入している。

(2) つや姫の高品質栽培を牽引

「山形つや姫マイスター」として、つや姫栽培マニュアルに沿った栽培管理を着実に実践し、地域における模範となり、「つや姫」生産を牽引している。

(3) 輸出米・加工用米の取組

株式会社クボタを通した輸出来に取り組みしており、香港やシンガポールへ輸出されている。加工用米とともに水田フル活用と販路拡大が期待される。

(4) 雇用による園芸部門の規模拡大

きゅうり部門では労働力を雇用で補い、露地面積の拡大を進めている。野菜苗部門ではきゅうり、すいかなど約6万本の生産・販売を行っている。

(5) にんじんを村山市の新たな特産に

転作田を利用した新たな園芸作物として、機械化体系の導入によるにんじんの栽培に取り組みしており、村山市の新たな特産野菜の可能性が期待されている。

(6) 農林大学校卒業生を社員として雇用

農林大学校卒業生2名を社員として雇用することで、雇用就農を志す大学校生の受け皿となっている。臨時雇用も年間約420日あり、地域の雇用創出に貢献している。

(7) 「やまがた元気な農業チャレンジネットワーク」を牽引

柴田代表は、地域の農業青年組織「やまがた元気な農業チャレンジネットワーク」代表を務めており、本会及び北村山支部の活動を牽引している。

3 今後の発展方向

(1) 社員を将来の経営のパートナーとして育成するため、経営感覚を磨くとともに、経営規模の拡大に合わせて社員の雇用を増やしていく。

(2) 農地中間管理機構を活用して水稻の規模拡大を進めるとともに、乾燥調製施設を整備し、高品質米の生産拡大を進めていく。

(3) にんじんの規模拡大を進めて秋以降の収入源として確立し、社員の増員や臨時雇用の拡大につなげるとともに、村山市の特産野菜となるよう振興していく。



(株)アグリラボの皆さん